

中長期目標 (学校ビジョン)	保護者・地域と連携し、望ましい職業観・勤労観を身につけ、知・徳・体のバランスのとれた次代を担う若者を育てる	今年度の 重点目標	1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける 2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する 3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む 4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける				
年 度 当 初							
評価項目	評価の具体項目	現状(令和2年度実績等)	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける	【自覚と誇りを持つ】 ・鳥商生であることに自覚と誇りを持ち、規律正しい生活を送っている。 ・校内、校外を問わず、明るい笑顔で気持ちのよい挨拶ができ、制服を正しく着こなしている。	・90%の生徒が鳥商での高校生活に満足していると回答している。(学校生活アンケート) ・97%の生徒が正しい身だしなみを実践、93%が自ら進んで挨拶していると回答している(学校生活アンケート)が、相手を見てしっかりと声が出て挨拶をしている生徒は減ってきている。また、登下校時の服装の乱れも見受けられるようになってきた。 ・86%の保護者が「鳥商は保護者・地域社会から信頼されている」と回答。(学校評価アンケート) ・88%の保護者が「生徒は挨拶やルール、マナー等社会に通用する意識や態度が育っている」と回答。(学校評価アンケート) ・93%の生徒が学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加していると回答。(学校生活アンケート) ・90%の生徒が安心で安全な学校生活を送っていると回答。(学校生活アンケート) ・70.1%(74.9%)の生徒が年間を通して無遅刻であった。遅刻回数は1日平均3.75件(2.02件)、一人あたり1.17回(0.68回)(通院等による遅刻も含む)。※()内は昨年度。 ・QUアンケートを年間2回(3年生1回)実施。結果や普段の学校生活の様子をもとに、教育相談員、スクールソーシャルワーカー、外部機関、学年団と連携しながら、配慮を要する生徒については個別に対応した。教育相談員と生徒、保護者、教員との面談回数は延べ450件(昨年度180件)であった。	・90%以上の生徒が、商業高校で学ぶ目的意識を高く持ち、鳥商に入学して良かったと思っている。 ・年間無遅刻の生徒が80%以上、一人あたりの遅刻回数が年間0.4回以下である。 ・学校内外を問わず、全校生徒が気持ちのよいさわやかな挨拶が自らできている。 ・学校内外を問わず制服の正しい着こなしができている。 ・地域社会から信頼と信用を得ている。 ・規範意識が高く、社会、学校の規則を守り、場面にに応じた言動をとっている。 ・学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加し、集団に貢献している生徒が90%以上。 ・安心で安全な学校生活を送っていると感じている生徒が90%以上。	・将来の職場での仕事や上級学校での学びにつながる鳥商での学びのスタイルを継続し、将来の社会生活に向けての自立を支援する。 ・社会生活を送る上で必要な日常生活における挨拶、正しい身だしなみ、規律遵守などの指導を継続して行い、自分の姿を客観的に見る力を養う。 ・学校内外での行動や態度により自分への信頼感を高めることが学校全体に好影響をもち、地域社会からの学校への信頼にもつながることを意識させる。	・1年生に対しての商業教育の導入としてビジネス基礎研修を4月に実施。鳥商で学ぶことと実社会との関連を話し、また鳥商に対する地域からの期待度の高さを伝え、日々の挨拶、身だしなみ、規律遵守が高い評価につながっていることを意識させた。コロナ禍により一堂に会しての指導の時間が取りにくい中での実施となったが、目標は概ね達成した。 ・2、3年生に対しては商業学科集会で再度鳥商教育の目的、上級生としてあるべき姿を伝えた。 ・挨拶は上級学年になると比較的できるようになるが、生徒によって差があり学校全体としては十分ではない。また登下校時も合わせて学校外での行動や身だしなみに対する意識をより高める必要がある。 ・9月末までの遅刻統計は1日平均2.00(2.78)件、生徒一人あたり0.36(0.49)回。()内は昨年度同期。遅刻連絡カードを活用しての指導を継続する。 ・5月に全学年で、9月に1・2年生を対象にhyper-QUアンケートを実施。結果や日常の観察を基にして教育相談員と連携しながら気になる生徒に対応している。	C	・1年生についてはLOGUS(ローカス)を導入し、継続して地域企業探究活動を行っている。10月8日(金)に地元企業・事業所で実習を行い、課題解決に向けた活動としていく。 ・端正な身だしなみと節度ある行動、場に応じた振舞いを常に心がけることの意義と目的を繰り返し伝える。挨拶をすることの意味を理解させながら指導を継続する。
	【自ら考え、判断し、行動できる】 ・規範意識、人権意識が高く、秩序だった言動ができるとともに、周囲や集団のために貢献する姿勢が身についている。	・ふるさとキャリア教育全体計画に基づく体験活動の多くが、コロナ禍により予定変更や中止を余儀なくされた。第27回鳥商デパートは感染対策を講じた上で規模を縮小して実施できた。就職、進学に関する卒業生、外部講師を招いての講演会、マナー指導、面接指導、1・2年生合同進路学習デー等はオンラインを併用する等実施形態を工夫して実施し、進路決定に役立った。 ・自己表現学習プログラムを年間計画に沿って実施。各種講演会においては生徒代表が謝辞を述べた。3年生に対して全職員で小論文指導、面接指導を実施。就職内定率、進学先決定率はともに100%である。1、2年生ではSHR時に分間スピーチを行い、自分の意見を発表する経験を積ませた。	・各学年において、ふるさとキャリア教育に関する体験活動が体系的に計画され、実施されている。 ・自己の社会生活、職業生活に結びつく進路選択がなされている。 ・自己の進路目標の実現に資する各種模擬試験、実務検定試験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・各種模擬試験、実務検定試験等の受験への支援が計画的に実施されている。 ・社会人として求められるコミュニケーション能力、自己表現力の基礎が身につけている。 ・就職希望者内定率、進学希望者合格率ともに100%である。	・令和3年度ふるさとキャリア教育全体計画に従って、事業・行事を実施する。事前、事後の指導も含めて実践力の向上を目指す。 ・自己表現力育成プログラムを年間計画に沿って実施するとともに、表現力を豊かにする一助として必要な知識量(語彙力、社会事象)についての知識などを増やす取組を進める。 ・3年生への小論文指導、面接指導や就職希望者への社会人による面接指導を継続して実施する。	・コロナ禍により中止、延期、変更を余儀なくされた体験事業、行事があるが、リモートで代替できた事業もある。事後の振り返りを通しての成長を期待したい。 ・自己表現力育成プログラムを継続して実施している。3年生への自己表現力育成講演会はリモートで実施した。 ・3年生への小論文、面接指導は全職員で取り組んでいる。 ・3年生の就職希望者に対する青年会議所の面接指導を対面で実施。貴重な時間となり意欲喚起につながった。 ・学校による学びの遅れを取り戻すため6月にも簿記検定週間を設け、学校全体で資格取得に向けて取り組んだ。	B	・生徒一人ひとりが学校の活性化にどう貢献できるかを考えさせながら行事等を行う。 ・生徒玄関での挨拶運動と遅刻指導を継続して行う。 ・学校生活アンケートを実施して、生徒の実態を把握し必要な策を講じる。 ・hyper-QUアンケートの結果を含めて教育相談員やスクールソーシャルワーカーと生徒情報を共有して、配慮を要する生徒についてはケース会議等により関係者で対応を検討し、必要に応じて外部機関と連携する。
2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する	【望ましい職業観、勤労観を身につける】 ・3年間を通した効果的な体験的活動によって、自立・自律のための実践力や応用力の育成が行われている。	・検定週間を設け計画的に補習を実施。3年生の全検定1級取得状況は3科目以上が97名(58%)であり取得率は51.1%(33.5%)、1級未取得者は5名(11名)、1級7科目取得者1名(2名)、商業経済検定全科目合格5名(1名)、会計実務検定全科目合格1名(なし)。 ※()は昨年度。 ・夏季休業、冬季休業中に全学年で普通教科及び商業科目の補習を、3年生の進学希望者には平日補習を実施。 ・全学年対象の公務員セミナー(7月29日から31日まで)を実施。 ・1、2年生対象に4年制大学見学会(12月18日公立鳥取環境大学)を実施。 ・就職希望者、進学希望者ともに全員が進路決定できた。 ・4年制大学進学希望者は、鳥取大学入学センター主催の研修会に参加した。	・各学年において、ふるさとキャリア教育に関する体験活動が体系的に計画され、実施されている。 ・自己の社会生活、職業生活に結びつく進路選択がなされている。 ・自己の進路目標の実現に資する各種模擬試験、実務検定試験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・各種模擬試験、実務検定試験等の受験への支援が計画的に実施されている。 ・社会人として求められるコミュニケーション能力、自己表現力の基礎が身につけている。 ・就職希望者内定率、進学希望者合格率ともに100%である。	・令和3年度ふるさとキャリア教育全体計画に従って、事業・行事を実施する。事前、事後の指導も含めて実践力の向上を目指す。 ・自己表現力育成プログラムを年間計画に沿って実施するとともに、表現力を豊かにする一助として必要な知識量(語彙力、社会事象)についての知識などを増やす取組を進める。 ・3年生への小論文指導、面接指導や就職希望者への社会人による面接指導を継続して実施する。	・コロナ禍により中止、延期、変更を余儀なくされた体験事業、行事があるが、リモートで代替できた事業もある。事後の振り返りを通しての成長を期待したい。 ・自己表現力育成プログラムを継続して実施している。3年生への自己表現力育成講演会はリモートで実施した。 ・3年生への小論文、面接指導は全職員で取り組んでいる。 ・3年生の就職希望者に対する青年会議所の面接指導を対面で実施。貴重な時間となり意欲喚起につながった。 ・学校による学びの遅れを取り戻すため6月にも簿記検定週間を設け、学校全体で資格取得に向けて取り組んだ。	B	・キャリア教育全体計画に従って、感染防止対策を徹底しつつ、可能な形で行事を実施する。事前、事後の指導も含めて実践力の向上を目指す。 ・自己表現力育成プログラムを計画に沿って実施。講演会の謝辞は生徒が行う。 ・3年生への小論文指導、面接指導を継続して実施する。 ・3年生の青年会議所による面接指導は次年度も継続実施する。
	【進路実現に向けて努力する】 ・体系的計画的なキャリア教育によって、将来の社会生活、職業生活に結びつく進路選択が行われている。 ・進路実現に資する模擬試験、実務検定試験等に積極的に取り組んでいる。	・毎朝食摂取92%、日ごろから運動を心掛けている生徒79%と健康的な生活を心掛けている生徒が多い一方、46%の生徒が就寝時間が夜1時以降になることがよくあると答えており、生活のリズムが取れない生徒も多い。92%の生徒が生活リズムが確立され授業に集中できていると回答しているが、就寝時間が遅いことが当たり前になっていることが危惧される。(学校生活アンケート) ・睡眠が6～8時間取れているのに、疲れている生徒、スマホ使用時間が長く、時間の使い方が上手でない生徒がいる。自己管理、コントロールする力、良質な睡眠が必要である。 ・保健だよりを発行し生徒・保護者に時期に応じた健康管理の啓発を実施した。 ・「ケガ・故障が多い」という健康課題の解決のため「ケガを予防する体づくり」をテーマに、理学療法士による柔軟性・可動性の前提となる「よい姿勢」のための健康教育LHRを9月に実施した。 ・体育祭(9月)での商高休養、集団行動と全校強歩大会(10月)を実施した。 ・新体力テストで県平均を上回る項目が多い。 ・10年間の健康教育の取り組みが評価され、全国健康づくり推進学校最優秀賞(日本学校保健会主催)を受賞した。	・欠席、遅刻をしないで、運動・食事・睡眠を意識した規則正しい生活を送っている生徒が80%以上である。 ・適切な健康管理が行われており、自主的な運動会がけ体力向上に努めるとともに、健康課題を生徒全体で解決しようとする姿が見られる。 ・生活リズムが確立され授業に集中できている生徒が80%以上である。 ・全国健康づくり推進の取り組みを発展させて、心身の健康作りさらに取り組む。 ・商業科目、普通教科科目ともにバランスよく学習し、定期考査期間を除く家庭学習時間が1日平均60分以上である。	・生活習慣の整っていない生徒への個別指導を継続し、心とからだをためてリセットする方法を体感・会得させる。 ・学校生活アンケート、健康教育アンケートを実施する。 ・けがを予防する意識づけのための健康教育LHRを継続して実施する。 ・保健だよりを月1回発行し、感染症予防、熱中症予防の啓発に努めている。 ・体育活動、行事は感染拡大防止の観点から、実施方法を見直しつつ実施した。 ・実践を全国学校保健学校安全研究会で発表する。	・新型コロナウイルス感染防止のため、日々の健康観察や検温を徹底し、不織布マスクの推奨や換気チェッカー導入など感染防止レベルを一段上げて環境整備を行い啓発を図った。5月に運動部でクラスターが発生したが最小限に食い止めることができた。また感染後の生徒への心理面におけるサポート体制も強化できた。 ・保健だよりを月1回発行し、感染症予防、熱中症予防の啓発に努めている。 ・体育活動、行事は感染拡大防止の観点から、実施方法を見直しつつ実施した。 ・昨年度の本校生徒の健康課題として指摘された「ケガの予防」をテーマに、健康教育LHRを9月16日(木)に生徒保健委員会主導で実施した。	B	・新体力テストのアンケート集計結果を今後の健康指導に活用する。 ・生活習慣の整っていない生徒への個別指導を継続するとともに、個々の実態に応じて必要な支援を行う。 ・感染症予防については他人事でなく各自の予防意識が大切であることを認識させる取り組みを進める。 ・強歩大会(男子27.5km・女子26km)を10月15日(金)に実施する。
3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む	【心身の健康作りを実践する】 ・基本的な生活習慣の大切さをよく理解し、運動・食事・睡眠に留意した規則正しい生活を送る。 ・健康課題を生徒主体で解決しようと努める。	・6月1学期期末考査前1週間の自宅学習時間(1日あたり)は、1年146分(139分)、2年180分(143分)、3年205分(126分)と各学年とも昨年同時期よりは増加。10月平常時の自宅学習時間は1年44.9分(34.5分)、2年32.6分(40.6分)、3年44.9分(24.6分)であった。クラス間の差が大きい。 ※()は昨年同期。 ・11月に中堅教諭等資質向上研修に係る研究授業(商業)と研究協議を実施。 ・12月にエキスパート教員公開授業(国語)を実施。	・生徒が部活動に加入し、真摯に取り組む努力することの大切さや困難に立ち向かう姿勢を身につけると同時に、学習と内容に努めている。 ・部活動が知・徳・体のバランスのとれた人格形成の場になっており、優勝を目指した努力が積み重ねられている。 ・各活動が互いに切磋琢磨し、全国大会出場の部活動が10以上となっている。	・学校全体として年間2回の自宅学習時間調査を継続する。 ・家庭学習と授業との連動をはかり、期間を限定しながら日々の学習時間と内容を記録させる取組を計画する。 ・1年生への一人一台端末の導入を契機として、オンラインツールを活用した学習習慣の定着をはかる。 ・教科内での公開授業、相互授業参観を促進し授業力向上を図る。	・1学期期末考査前1週間の自宅学習時間を調査。1日平均で1年146分→166分、2年180分→158分、3年205→180分、(前年度同時期からの推移) ・前期授業アンケート結果によると、授業内容は理解できていると答えた生徒は多いが、学年が上がるごとに復習している生徒は減少している。 ・Google Classroomを利用した学習支援の取り組みが定着してきた。 ・コロナ感染による臨時休校の際にリモート授業を行い、各教科で工夫をして配信を行うことができた。 ・一人一台端末の導入に合わせて、端末利用のルール作りが進んだ。	B	・自宅学習の内容を具体的に指示し授業と関連させる。課題の量も適正かどうか再検討する。Google Classroomを活用した自宅学習の支援を進める。 ・10月18日(月)からの1週間自宅学習時間調査を実施。平常時の学習状況を把握する。 ・11月18日(木)に授業改善に関する職員研修会(オンライン研修会)を実施する。
	【学力向上に努める】 ・主体的に授業に取組み、秩序のある学習態度が保たれている。 ・進路実現を意識した自宅学習が、継続的に積み重ねられている。	・部活動の加入率は99%と高いが、あまり活動できていない生徒がいることも事実であるため、活動率も顧みてみる必要がある。コロナ禍による全国大会の中止、中国大会の棄権もある中でも好成绩を収めた部もある。 ・部活動終了時刻の周知を図ったが、一部の生徒は帰宅時間が遅く自宅での学習時間が確保できていない。	・生徒が部活動に加入し、真摯に取り組む努力することの大切さや困難に立ち向かう姿勢を身につけると同時に、学習と内容に努めている。 ・部活動が知・徳・体のバランスのとれた人格形成の場になっており、優勝を目指した努力が積み重ねられている。 ・各活動が互いに切磋琢磨し、全国大会出場の部活動が10以上となっている。	・部活動を奨励し、全員加入を継続指導する。また、活動の実態を把握し、学年と連携して生徒の意欲的な活動を支援する。 ・鳥取県の部活動方針や感染症対策ガイドライン等を踏まえながら活動時間を随時見直し、学習との両立を進める。	・99.9%の生徒が部活動に加入し活発に活動している。複数の部を兼部している生徒も多い。1年生で退部した生徒もすぐ次の部活動に加入している。全国規模の大会を目指し、各自の目標を見据えて努力する姿が見られる。 ・帰宅時間が遅く自宅での学習時間が確保できない生徒もいる。	・部活動への全員加入を継続指導する。 ・部活動への支援を継続しつつ、自宅での学習時間も確保できるよう活動時間を時期に応じて変更する。	B
4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける	【ビジネス実践力を向上させる】 ・授業や体験的活動等によって習得した知識や技術を、実践力・応用力の育成に活かすことができる。	・定期的な身だしなみ指導に加え、学校生活全般にわたって挨拶、身だしなみ等の指導を行った。全校集会等の場面でも注意を喚起した。 ・ほとんどの生徒は場に応じた適切な言葉遣い、相手に配慮した言動が取れている。 ・学校運営協議会を3回実施。産業界、地域、保護者代表から本校教育についてご意見、ご提言をいただいた。 ・コロナ禍の影響でPTAと協力してのあいさつ運動は1回のみの実施となった。	・社会人として身につけておくべき挨拶の仕方、場に応じた適切な言葉遣いができる。 ・相手に好感を与える制服の着こなし、高い規範意識、人権意識に基づく言動が取れている。 ・授業や様々な行事の開始時間に対し、余裕を持った行動が実践できている。 ・鳥商教育の集大成である第28回鳥商デパートにおいて、鳥商での生活全般で習得したビジネスの知識、技術を実践、応用できている。 ・図書の貸出し冊数が増加している。 ・生徒がグローバル社会を実感できるよう留学生、海外からの訪問団を積極的に受け入れるなど異文化に触れる機会を設定している。 ・全商英語検定の取得状況が昨年度より向上している。	・定期的な身だしなみ指導のみならず、身だしなみ、頭髮、挨拶などのマナー指導はビジネス教育でも行う。指導に乗りない生徒には丁寧に説明して見通しを持たせ、端正な姿が生徒自身の評価につながる、学校全体の評価につながることを意識させる。 ・6月28日(月)に第1回学校運営協議会を開催し、各委員から意見、提言をいただいた。 ・9月21日(火)から3日間さわやかマナーアップ運動とピンクシャツデーinとつりを実施した。4月のさわやかマナーアップ運動は実施できず。	・新型コロナウイルス対策として密を避けるために全校集会や学年集会の回数が減り、校是ともいえる「即戦力」に向けて身だしなみを整えることや、挨拶の意義など全体への周知が徹底できなかった。 ・定期の身だしなみ指導だけでなく、学校生活全般で授業、身だしなみの指導を実施しているが改善の余地がある。 ・6月28日(月)に第1回学校運営協議会を開催し、各委員から意見、提言をいただいた。 ・9月21日(火)から3日間さわやかマナーアップ運動とピンクシャツデーinとつりを実施した。4月のさわやかマナーアップ運動は実施できず。	C	・身だしなみ、頭髮、挨拶などマナー指導を継続して行う。端正な姿が生徒自身の評価につながり、学校全体の評価につながることをビジネス教育全般で意識させ、日々の身だしなみや清掃の指導を徹底する。 ・第2回学校運営協議会(授業参観も含む)を11月10日(水)に開催する。
	【グローバル感覚、語学力を磨く】 ・異なった意見に対する寛容の精神と、自分で考え伝える力を兼ね備えた自己表現力が身につけている。 ・グローバル感覚、英語運用能力が向上している。	・アメリカ合衆国バーモント州エッセックス高校とのオンライン交流を12月より4回実施し、毎回約20名が参加した。 ・全商英語検定1級取得者14名(16名)、3級合格者83%(95%)と低迷した。 ※()は昨年同期。 ・1年生コミュニケーション英語1で習熟度別授業を実施。	・生徒が部活動に加入し、真摯に取り組む努力することの大切さや困難に立ち向かう姿勢を身につけると同時に、学習と内容に努めている。 ・部活動が知・徳・体のバランスのとれた人格形成の場になっており、優勝を目指した努力が積み重ねられている。 ・各活動が互いに切磋琢磨し、全国大会出場の部活動が10以上となっている。	・国際交流のようすを授業や部活動を通して発信し生徒の関心を喚起することで、交流を牽引する次期リーダーを育成する。 ・オンラインで参加可能な海外交流事業への積極的な参加を勧める。 ・全商英検1級受検、実用英語検定準2級以上の受検を勧める。 ・1年生入学後の英語初期指導を充実させるため1年生コミュニケーション英語1での習熟度別授業を継続する。	・4月のバーモント州からの訪問団の受け入れ、11月の本校からの派遣はコロナ禍により中止となった。 ・9月実施全商英検合格者は1級5人(0人)、2級26人(13人)、3級157人(139人)であった。()内は昨年度同期。 ・1年生コミュニケーション英語1での習熟度別授業を継続実施している。	B	・エッセックス高校との交流の実現に向けて、英語の授業での学校紹介動画の制作等工夫をしながら継続してオンラインでの交流を月1回行う。 ・12月実施全商英検での1級受検、実用英語検定の準2級以上の受検を勧める。生徒の英語運用能力を向上させる。 ・習熟度別授業の継続を県教委に要請する。
5. 業務改善の取組	校務分掌・任務分担の見直しを実施する。	・夏季休業中に、対外業務停止日を3日間設定し、夏季休業中の夏季休暇取得を促進した。 ・教員業務アシスタントの活用により、当該分掌の職員の業務が削減され、生徒対応に専念できる時間が増えた。 ・校内掲示版やGoogle Classroomの活用により、多様な勤務形態の職員も含めての効率的な情報共有ができた。	・月当たりの時間外業務についてはさらなる縮減を目指す。 ・休業日、活動時間を設定した活動方針を全部活動に徹底する。 ・時間外業務月45時間以上勤務者を解消する。	・夏季休業中に対外業務停止日を設定する。 ・校務分掌の任務分担を見直し、業務量の適正化を図る。 ・校内掲示版、Google Classroomの活用をさらに推進する。 ・部活動方針を明確化して期間に頭数確保するとともに、部活動の月別計画と実績表を活用し、生徒の心身体一体となった発達のための検討を進める。	・夏季休業中に、対外業務停止日を3日間設定した。 ・業務アシスタントや特別支援教育支援員の配置の継続を県教委に要請する。 ・担当分掌を限定せず、業務アシスタントの幅広い活用を進める。 ・校内掲示版の活用方法を定着しつつある。	B	・業務アシスタント、特別支援教育支援員の配置の継続を県教委に要請する。 ・担当分掌を限定せず、業務アシスタントの幅広い活用を進める。 ・校内掲示版の活用方法を定着しつつある。
	長時間勤務者を解消する。	・部活動の月別計画と実績表の活用により、部活動指導における生徒の活動時間や勤務時間外の指導時間を可視化することで、業務の適正化への職員の意識が高まった。 ・コロナ禍で部活動が制限を受け勤務時間外の指導時間が減少した影響もあり、月当たりの時間外業務は令和元年度比で44%減となったが、時間外業務月45時間以上勤務者の解消には至っていない。	・部活動の月別計画と実績表の活用により、部活動指導における生徒の活動時間や勤務時間外の指導時間を可視化することで、業務の適正化への職員の意識が高まった。 ・コロナ禍で部活動が制限を受け勤務時間外の指導時間が減少した影響もあり、月当たりの時間外業務は令和元年度比で44%減となったが、時間外業務月45時間以上勤務者の解消には至っていない。	・部活動の月別計画と実績表の活用により、部活動指導における生徒の活動時間や勤務時間外の指導時間を可視化することで、業務の適正化への職員の意識が高まった。 ・コロナ禍で部活動が制限を受け勤務時間外の指導時間が減少した影響もあり、月当たりの時間外業務は令和元年度比で44%減となったが、時間外業務月45時間以上勤務者の解消には至っていない。	・部活動の月別計画と実績表の活用により、部活動指導における生徒の活動時間や勤務時間外の指導時間を可視化することで、業務の適正化への職員の意識が高まった。 ・コロナ禍で部活動が制限を受け勤務時間外の指導時間が減少した影響もあり、月当たりの時間外業務は令和元年度比で44%減となったが、時間外業務月45時間以上勤務者の解消には至っていない。	B	・部活動の月別計画と実績表を活用し、各部の事情に応じた部活動の年間の活動の在り方について検討を進める。